

2002

子どもゆめ基金 ガイド







独立行政法人
国立オリンピック記念青少年総合センター

子どもゆめ基金

目次

CONTENTS

「子どもゆめ基金」について	1	
「子どもゆめ基金」の概要	2	
平成13年度応募・採択状況	4	
平成13年度助成活動事例 <small>(子どもの体験活動)</small>	6	
平成13年度助成活動事例 <small>(子どもの読書活動)</small>	19	
平成13年度助成活動事例 <small>(教材開発・普及活動)</small>	25	
平成14年度応募・採択状況	30	
子ども読書の日記念 “子どもの読書活動推進フォーラム”	32	
「子どもゆめ基金」の寄附金について	35	

「子どもゆめ基金」について

今日、少年による凶悪事件や問題行動が大きな社会問題となり、子どもたちを取り巻く状況の悪化が懸念されております。また、子どもたちの社会性を育成する観点から、自然体験活動等の体験活動の充実や、言葉の教育の重視などが指摘されております。

「子どもゆめ基金」は、超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、同議員連盟が中心となって検討を進められてきたものを受け、平成13年4月に独立行政法人国立オリンピック記念青

少年総合センター法が改正され、さらに、平成13年度政府予算において措置された政府からの出資金100億円に加え、民間からの寄附を原資とする基金として創設されました。

この基金は、21世紀を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取組や、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

助成対象活動

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

【活動例】

①子どもを対象とする体験活動

- 自然観察、キャンプなどの自然体験活動
- 清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動 など

②子どもの体験活動を支援する活動

- 子どもの体験活動の指導者養成 など



子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

【活動例】

①子どもを対象とする読書活動

- 読書会活動、読み聞かせ会 など

②子どもの読書活動を支援する活動

- 子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など



子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

【活動例】

- 子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動



助成対象団体

民法法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発

助成金の額

子どもゆめ基金による個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

審査方法

子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する15名の委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、そのもとに分野別に3つの部会、5つの専門委員会を置き、各分野の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

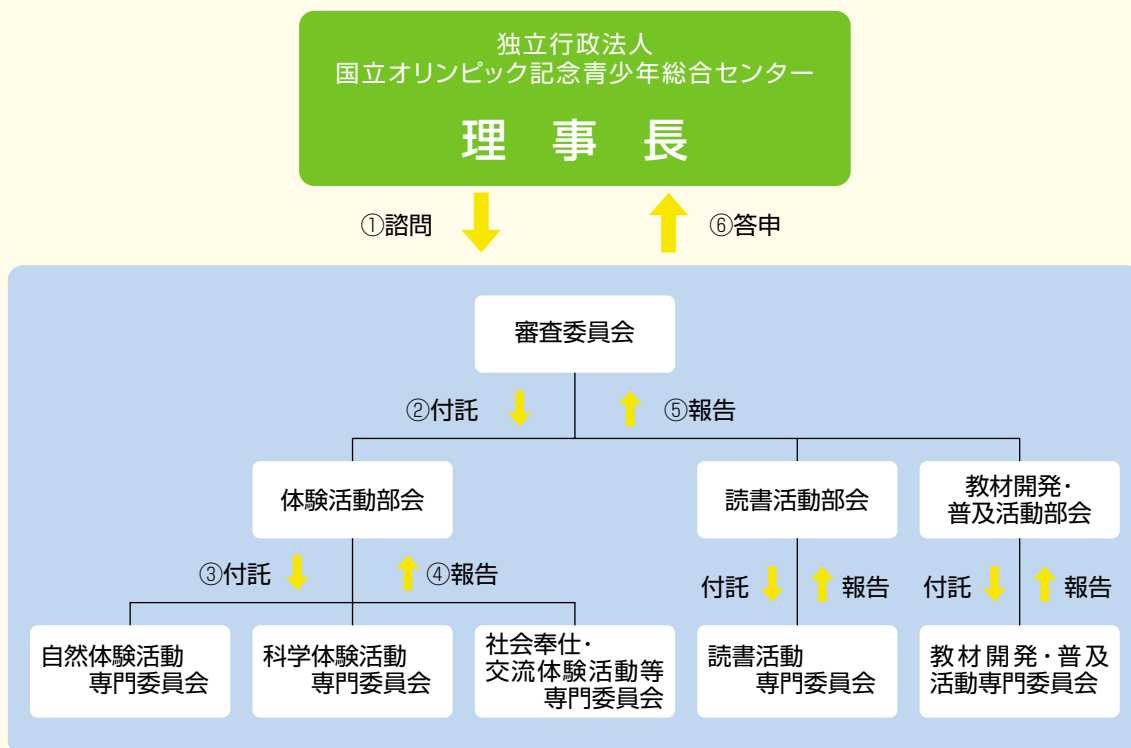
応募のあった活動については、センター理

事長から審査委員会へ助成対象活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から部会へ、さらに専門委員会へと順次調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、審査委員会で決定された「子どもゆめ基金助成活動の審査の方法等について（平成13年7月16日決定）」に則り、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が行う事前審査の結果をもとに、専門的見地から合議により助成対象活動の評定（選定）を行います。

各部会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、この結果を審査委員会に報告します。

これを受けて審査委員会において審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



平成13年度 応募・採択状況

◇活動区分別応募・採択状況

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	助成額
子どもの体験活動	1,724	1,469	971,607
子どもの読書活動	257	207	91,805
教材開発・普及活動	87	30	285,668
合計	2,068	1,706	1,349,080

◇子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
北海道	71	66	31,910
青森県	15	15	5,539
岩手県	44	38	7,851
宮城県	26	25	14,681
秋田県	26	24	6,069
山形県	10	10	5,510
福島県	26	24	12,854
茨城県	47	45	16,568
栃木県	26	22	9,213
群馬県	26	19	13,653
埼玉県	43	20	7,098
千葉県	37	36	13,177
東京都	192	153	357,067
神奈川県	50	40	16,506
新潟県	29	26	13,923
富山県	25	22	10,708
石川県	12	11	6,190
福井県	18	12	7,017
山梨県	8	8	2,827
長野県	64	48	23,774
岐阜県	32	28	18,757
静岡県	39	32	21,513
愛知県	41	34	21,798
三重県	32	27	17,543
滋賀県	24	21	14,770
京都府	110	91	34,548
大阪府	152	129	72,242
兵庫県	73	69	30,853
奈良県	15	13	6,912
和歌山県	21	17	4,549
鳥取県	14	13	5,908
島根県	22	17	7,302
岡山県	26	23	7,218
広島県	25	23	7,939
山口県	27	24	9,849
徳島県	27	24	17,528
香川県	9	6	2,430
愛媛県	14	14	4,865
高知県	15	15	8,404
福岡県	55	44	19,511
佐賀県	9	7	2,566
長崎県	19	17	8,121
熊本県	30	27	17,335
大分県	15	13	3,384
宮崎県	24	23	5,907
鹿児島県	52	48	14,828
沖縄県	7	6	2,892
合計	1,724	1,469	971,607

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。(以下、同じ)

◇子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
北海道	8	7	2,936
青森県	3	2	1,080
岩手県	2	2	322
宮城県	3	3	5,070
秋田県	2	2	500
山形県	1	1	298
福島県	7	7	3,194
茨城県	6	5	1,467
栃木県	2	2	542
群馬県	1	0	0
埼玉県	7	5	1,434
千葉県	6	5	825
東京都	21	14	16,339
神奈川県	12	10	903
新潟県	5	5	717
富山県	1	1	165
石川県	5	4	2,395
福井県	5	3	634
山梨県	3	2	469
長野県	11	7	2,201
岐阜県	0	0	0
静岡県	7	6	1,515
愛知県	2	2	4,285
三重県	0	0	0

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
滋賀県	8	8	5,361
京都府	10	6	1,490
大阪府	27	24	9,194
兵庫県	5	4	565
奈良県	6	3	2,434
和歌山県	2	1	350
鳥取県	1	1	411
島根県	9	8	2,858
岡山県	3	3	403
広島県	1	1	361
山口県	5	4	2,262
徳島県	4	4	940
香川県	1	1	168
愛媛県	3	3	1,077
高知県	1	1	172
福岡県	9	5	1,432
佐賀県	3	2	1,036
長崎県	2	2	130
熊本県	5	5	2,320
大分県	3	2	868
宮崎県	15	11	3,626
鹿児島県	9	8	2,496
沖縄県	5	5	4,560
合計	257	207	91,805

◇教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
北海道	2	1	8,909
宮城県	1	1	11,235
山形県	2	0	0
群馬県	1	1	9,000
埼玉県	1	1	11,160
東京都	36	11	136,175
神奈川県	4	0	0
石川県	1	0	0
岐阜県	4	3	22,759
静岡県	3	2	26,427
愛知県	2	1	5,964
京都府	6	1	12,983
大阪府	8	3	15,922

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
兵庫県	3	0	0
奈良県	1	0	0
和歌山県	2	1	2,181
鳥取県	1	0	0
岡山県	1	0	0
広島県	1	0	0
山口県	1	1	4,626
愛媛県	1	1	3,348
福岡県	2	0	0
長崎県	1	1	6,566
熊本県	1	0	0
沖縄県	1	1	8,413
合計	87	30	285,668

双海町少年少女おもしろ教室

実施団体名 ^{ふたみ}双海町少年少女おもしろ教室実行委員会
連絡先 〒799-3292 愛媛県伊予郡双海町大字上灘甲5821番地6
TEL：089-986-1114 FAX：089-986-1483

団体の概要

ふるさとを愛する心を持った、心身共に健全な子どもを育てるため、平成11年4月、青年団長や老人クラブ会長などで組織する「双海町少年少女おもしろ教室実行委員会」を設立し、活動している。

活動の概要

双海町は、瀬戸内海伊予灘に面し、柑橘経営や沿岸漁業を基幹産業としている自然豊かな地域である。その中で成長していく子どもたちに、自然や文化、産業等にふれながら、体験活動を行うことにより地域の人々の力強さを学び、伝統や人とのコミュニケーションの中から豊かな人間性を育むことを目的として、「双海町少年少女おもしろ教室」を実施している。

また、次の三つを重点目標に掲げて取り組んでいる。

①「ふれあい体験」

地域の人々とのふれあいを深めながら、古き良きものを学ぶ。

②「ふるさと体験」

自然の中で自分たちのくらし

ている地域のすばらしさを実感する活動を行う。

③「ふたみ再発見」

自分たちの町を知り、郷土に誇りを感じるための活動を行う。

活動の内容

平成13年度は、年間8回計画し、町内小学生を対象に募集を行った結果、21名の参加があった。

第2回の「みんなでキャンプ」は、夏休み期間を利用して一泊二日で行った。受講生へのアンケート調査結果でもキャンプは一番人気のある活動で、夏ならではの共同生活を体験させることを重視した。

〈活動プログラム〉

1日目:集合・キャンプ開講式、昼食、宇宙めだかの話、竹ぼうき作り体験、夕食、星空ウォッチング

2日目:起床・ラジオ体操、朝食、ふるさと探検(登山)、昼食、梨狩り、後片付け、閉講式

キャンプは、山奥のなにもない人里離れた、宇宙飛行士の向井千秋さんとともに宇宙を旅した「宇宙め

だか」が飼われているめだかの学校「こう壽庵」で行った。

食事はすべて自分たちで作り、限られた水しかない中で実施した。このような不便な中での野外活動を体験したことにより、日常生活の「あたり前」がそうではないことを学ぶ機会を提供した。

成果と課題

平成13年度の当活動を終えてのアンケートには、「なかなかできないことができるので楽しい」「違う学校や学年の人と仲良くなれてよかった」「山登りはちょっと苦しくて、降りるときも滑ってたいへんだったけど楽しかった」6年生では、「中学生になると参加できないのが残念です。でも参加できたら参加したい」といった感想が多く記入されており、子どもたちが楽しく意欲的に活動できたことが伺える。また、保護者からは、「帰宅後、活動の内容や友達のことをよく話してくれます」といった声も届いており、家庭での親子の対話の促進にもつながっているようである。

一方、今後の課題としては、「大人(事務局)が楽しくなければ、子どもたちも楽しくない」ので、「楽しい活動であること」をキーワードに、こちらが用意したことをただ体験させるのではなく、子どもたちの主体性を伸ばすきっかけをつくる活動にしたいと考えている。



地元高齢者の指導による竹ぼうき作り体験

知的障害児のための自然体験活動2001

実施団体名 ホビット 歩人クラブ
 連絡先 〒220-0024 神奈川県横浜市青葉区市ヶ尾町1161-8 P-MAC野外教育研究センター
 TEL : 045-973-9516 FAX : 045-973-9516

団体の概要

構成員は学習障害児、自閉症児など知的に問題のある子どもたちではあるが、その障害の程度は軽く、いわゆる特殊学級では受入れが難しい程度の障害である。しかし、普通学級でも居場所はなく、どちらからも受入れに難が生じてしまう。いわば社会福祉制度の谷間のような位置に置かれた子どもたちである。この子どもたちに決定的に欠けるものは社会性の低さである。友人関係を作れないという特殊性から生じているものと思われる。この子どもたちが安心して受入れてもらえる遊びの場を作ろうと母親たちが奔走しP-MAC野外教育センター（以下、「P-MAC」）と出会い1996年に設立された。

活動の概要

障害児の社会性や自主性、協調性などの伸長を目的として、大学生や専門学校生を中心としたボランティアとともに野外活動等に取り組んだ。

活動の内容

1.「2001夏キャンプ」

健常児、会員外児童が若干名参加。障害児にとって宿泊を伴う活動は「訓練」と呼ばれる活動が多いと聞かすが、訓練に相当する活動は一切ない。子どもたちに聞くとキャンプ以外では学校でも地域でも仲間に入れてもらうことができず、一度もやったことがないとのことから「スイカ割り」などのどこでも行われているアクティビティーを実施した。

2.「2001冬休みスキーキャンプ・春休みスキーキャンプ」

スキーの困難な子どもたちはスキー場の許可をもらってリフトに乗り頂上から徒歩で降りる体験をするなど、「雪と遊ぶこと」ではなくてスキー場での活動ということを意識させている。スポーツの経験は極端に少ない子どもたちなので、集団で指導することが難しく対指導者の比率が高くなる。また、できるだけ小さな単位（2～3名）に分けた指導を心がけた。

3.「湘南海岸ごみ拾い」

当日はP-MACを通じて湘南自然学校の子どもたちにも参加を呼びかけたが、日程が合わず学生スタッフの参加のみになってしまった。しかし子ども1～2名にリーダーが一人という体制がとれ、多くのゴミを拾って、海岸で遊ぶ人たちやサーファー達に感謝された。障害がある故に日常的には「～してもらう」ことに慣れてしまっている子どもたちであるが、「他人のために」といった能動的な活動も可能である。

4.活動の特徴

- ①活動に親たちの参加がないこと。親たちの手を煩わせることなく行った。
- ②出来る限り簡素化したりせず健常児が体験できることをそのまま行った。
- ③機会あるごとに健常児の参加を募って実施した。

成果と課題

「フレンドシップ～」と銘打った活動の多くは健常児と障害児との比率が8:2あるいは5:5ほどであるケ



夏キャンプでのスイカ割

ースが多いように思われる。しかし、歩人クラブの場合は2:8と逆転することがしばしばで健常児には異体験となるが、障害児に対する理解を促進するものと思われる。また、障害児にとっても大多数ではない間近な目標となり良い刺激となっている。また、母親たちはともすれば我が子にはできないと先入観を持ちがちであるが、保護者から離れて思い切ったプログラムを展開することにより、子どもたちとリーダー達との関係がより密になり、リーダー達は社会への窓となっている。

障害者の活動は地域性が高い。対象者の障害（軽度の障害）のこともあり一般公募の活動は難しい問題である。今年度はパンフレットからの参加者は皆無であった。したがって、口コミの募集に頼らざるを得なかった。

また、民間組織であるが故に学校や公共施設にパンフレットを持ち込むことができない。

とはいえ歩人クラブは地域において一定程度の知名度を得るに至っている。未永い継続を旨としたい。

「とんぼの学校 どろんこ教室」

実施団体名 カラカネイトンボを守る会
連絡先 北海道札幌市北区あいの里4条7丁目1-1 北海道札幌拓北高等学校内
 TEL：011-778-9131 FAX：011-778-9132
 E-mail：tombo@tombo.host.me-h.ne.jp URL：http://www.host.me-h.ne.jp/tombo/

団体の概要

本会は、北海道札幌拓北高等学校理科研究部が札幌市北区あいの里、篠路、福移地区における湿地や河川に生息するトンボやホタルの研究活動や自然保護活動に賛同して、1996年6月6日にあいの里地区の地域住民が中心となって発足した。主に、石狩川下流域の湿原、特にレッドデータになっているカラカネイトンボの保全活動と、これからの未来を担う子ども達にその大切さを教える教育活動に力を入れている。

活動の概要

活動の目的は、湿原に生息する生物（水生昆虫・湿性植物など）とふれ合うことによって、自然に対する興味や関心を高めるとともに、自然と人間との関わり方を学び、自然を愛し、人を愛する人間形成を図ることである。さらに、子どもの豊かな情操を育てるための読み聞かせ活動を、多くの生物と接する自然とのふれあい体験と重ね合わせることで、身近な自然に感動する心を養い、読み聞かせの効果を高め、それぞれの活動の相乗効果によって心身共に健康な子どもを育てたいと考えている。

主な活動内容は、昆虫や魚類の採集、観察、飼育、標本作製、さらに、植物の観察などの多種多様な生物とのふれ合いをふんだんに体験させる。また、それらの体験の中に科学的な思考や豊かな情操を養うための読み聞かせをプログラムの中に取り入れている。



湿原でのビオトープ作り 穴を掘って水棲昆虫を入れて大忙し

活動の内容

年間10回のプログラムを計画した。地域にはミズゴケ湿原の状態をとどめている篠路福移湿地と自然を活かした雨水調節池であるトンネウス沼で自然体験活動を実施している。

①篠路福移湿地ではオオルリボシヤンマやアオヤンマ、カラカネイトンボ、ゲンゴロウなどの水生昆虫、エゾホトケやエゾトミヨなどの魚類を採集し、観察したり飼育方法について学習した。また、湿原内の乾燥化した場所に池塘を掘って、ビオトープ作りも行った。「水の中の生物をさがそう(5/27)」「湿地の観察会と湿地のビオトープ作り(7/8)」「昆虫採集・飼育と標本作り(8/12)」「赤とんぼ観察会(9/9)」

②トンネウス沼では沼の一角にホタル池を作成し、ホタルの生息できるビオトープ作りを行い、ホタルの光の美しさを通して自然保護の啓蒙を行っている。「ホタルの幼虫放流会(6/14)」「ホタルの光観察会(7/27)」

③また、トンネウス沼はトンボの生息地として知られており、その生息維持のため富栄養化し、陸化して来ている部分の開削、周辺部の草刈りなども行っている。「里沼の手入れ：トンネウス沼の開削と水質改善(8/5)」

成果と課題

全体として活動内容も盛りだくさんで、参加者も多く、好評であった。活動の目標である自然体験を通して、動植物とそれを取り巻く自然環境について学び、自然愛護や環境問題への意識や態度が育成されたと感じている。また、町内会の協力が今年度から尚一層強くなり、町ぐるみの活動に発展する見込みである。

しかし、実施回数が多く、運営準備をする役員の負担が大きかった。また、各回ごとに募集案内を出したため、案内ポスター・パンフレットを作る手間がかかりかかった。今後は内容を精選し、系統的な活動を企画していきたいと考えている。

自然体験活動指導者フォーラム

実施団体名 NPO法人自然体験活動推進協議会
連絡先 〒160-0022 東京都新宿区5-7-8-6F
 TEL：03-5363-2501 FAX：03-5363-2502
 E-mail：info@www.cone.ne.jp URL：http://www.cone.ne.jp

団体の概要

良質の自然体験活動をより多くの人に提供することを目的に平成12年5月、我が国を代表する80以上の自然体験活動団体が集り、自然体験活動推進協議会（CONE）が設立され、一定の技術・経験に達した自然体験活動指導者を「自然体験活動リーダー」とする各団体共通の指導者登録制度を平成12年7月に開始した。

平成14年3月にはNPO法人を取得し参加団体も154団体、登録指導者数は1万人を超えるなど日本の自然体験活動団体をつなぐネットワーク団体として、日本の自然体験活動の普及と質の向上に向けて、各団体の自然体験活動指導者を広く紹介するための登録を行っている。

活動の概要

全国3ヶ所（群馬県新治村・鹿児島県鹿児島市・三重県多気郡宮川村）の各地域で一次産業従事者の方々を対象とした、自然体験活動指導者フォーラムを行った。

一次産業を中心とした自然体験の指導者養成を目的に、地域での経験が豊富な方を中心に、6時間の中に講義と実技を織り混ぜたプログラムを行い、自然体験活動の理念や、安全対策など、指導者として必要となる知識と参加者の子どもたちに伝える方法などを中心に行った。

また各方面の方々をパネリストに今後の自然体験における一次産業従事者の役割について、上記の

カリキュラム内容を含めながらシンポジウムを行い、一次産業の体験が子どもに与える影響の大きさや大切さを分かち合った。

活動の内容

一次産業従事者を自然体験活動の指導者とするため、次のようなカリキュラムで指導者養成講座を行った。

- ①自然体験活動の理念
- ②自然の理解/自然と人・社会・文化の関わり
- ③自然体験活動の基礎技術
- ④安全対策について
- ⑤自然体験活動の指導法/プログラム作りの基礎知識

実施にあたっての留意点は、通常の労働を自然体験活動プログラムとして楽しく提供できるよう、活動上必要なプレゼンテーション技術などをおりませたこと、各開催場所の風土や歴史などについての説明などを取り入れ、参加者の興味を抱かせたこと、また参加体験型のワークシ

ョップを取り入れ、参加者の集中力を持続させたことなどがあげられる。

成果と課題

地域で密接に一次産業に従事している方が参加者の中心だったので、一次産業分野における自然体験活動指導者の育成方策を探る上では、具体的なリーダー養成カリキュラムの作成に役立った。

参加者の声に、「非常に良い内容の事業だったが今後はもっと地元の公民館などを使って、さらに地域と密着した場所で事業を開催してほしい」という声が多く聞かれたことから、地域密着型現地開催が望まれる。

今回出来上がった自然体験活動リーダーカリキュラムを活かし、一次産業従事者における指導者を増やしていく方策の検討と、その指導者が活用されるための活動の場を提供するシステムづくりが必要である。



熱心に研修を受ける参加者

全国子ども長期自然体験活動運営者交流会

実施団体名 長期自然体験活動研究会
連絡先 〒201-0004 東京都狛江市岩戸北4-7-11 国際自然大学校内
 TEL：03-3489-6582 FAX：03-3489-6921

団体の概要

1997年12月9日、文部省(当時)中央教育審議会「幼児期からの心の教育に関する小委員会」において、「よりよい自然体験活動を提供するには専門的な指導者の存在、そしてプロフェッショナルな組織が必要」と指摘された。

また、欧米のような長期間の自然体験活動の必要性やその実現性についての議論があり、結果的に1998年6月30日の答申の中に「民間の力を活かして長期の自然体験プログラムを提供しよう」という提案がされた。

その年の7月24日から8月23日までの一か月におよぶ「30泊31日心ふるさと村」が山梨の国際自然大学校日野春校で実施され、その翌年には、全国50ヶ所、2000年度には70ヶ所、2001年度には全国84ヶ所で「子ども長期自然体験村」が実施された。

この流れをふまえ、今後の長期自然体験のさらなる充実を図るため本研究会を設立した。

活動の概要

2001年12月13日～14日(1泊2日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて全国各地から長期自然体験の運営者140名が集まり、長期自然体験活動を展開するうえでの共通の課題を明らかにするために、「全国子ども長期自然体験活動運営者交流会」を開催した。

活動の内容

12月13日(木) 第1日目



パネルディスカッションで質問する参加者

〈事例発表-1〉

- A. 子ども長期自然体験村ひろしま Back to the Nature 2001
- B. 子ども長期自然体験IN大瀧村 2001 山中友子隊体験村
- C. 沖縄長期自然体験村 とくしま子ども長期自然体験村
- D. 少年長期キャンプ「野尻学荘」 オーストラリア・フレーザー島 環境学習キャンプ

〈事例発表-2〉

- A. 日野春子ども長期自然体験村 おたりジュニア・アドベンチャー
- B. のせ・21世紀へのときめきキャンプ (財)育てる会における長期自然体験活動
- C. 妙高キッズアドベンチャー「未知の旅」 青森県立下北少年自然の家長期自然体験活動

12月14日(金) 第2日目

〈分科会〉

- A. 研究の視点でみる長期自然体験活動

- B. 長期自然体験活動において望まれる指導者の資質
- C. プログラムからみる長期自然体験活動
- D. マネジメントからみる長期自然体験活動

〈パネルディスカッション〉

「長期自然体験活動の展望」

成果と課題

全国各地で取り組まれた長期自然体験村の運営・実施者のリアリティある情報交換の場となり、参加者にとって今後のよりよい長期自然体験活動を実施するうえで参考になったと考えている。特に、プログラムの組み方やスタッフの養成、確保、広報や宣伝のあり方、安全対策など具体的な事例に基づいた情報交換が有益であった。

遊園地で「科学&物理を楽しむ日」

実施団体名 ガリレオ工房・岩手
連絡先 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-33 岩手大学教育学部内
 TEL：019-621-6546 FAX：019-621-6546
 E-mail：i-yagi@iwate-u.ac.jp

団体の概要

ガリレオ工房・岩手は現職の教員を中心に構成され、この岩手県の子どもたちに科学や物理のおもしろさを伝えるために定例的に活動を進めるため、平成13年4月に設立した。

活動の概要

「遊園地は巨大な科学実験室」という認識にたって日本で初めて遊園地を1日貸し切って科学&物理を学習するための1日イベントを「物理の日」と銘打って開催した。目的としては、理科離れ・物理嫌いの多い今日、21世紀の主演である子どもたちに実体験を通して、理科や物理の楽しさを伝え科学の心を育てること、さらに怖い乗物にも動じない危機管理の心やチャレンジ精神を育てることである。

活動の内容

全日イベントで、当日は遊園地のアトラクションの速度や距離、高さ、乗物に乗っているときに受ける力つまり加重力などを体験しながら、

自作の様々な測定器を使い測定させた。これは普段学校の授業ではあまり取り扱わない測定実験である。

当然、実験を行う前に物理に興味を持ってもらうために、中央ステージで水ロケットやコースター模型などを用いた面白実験ショーなどを行ったり、各アトラクションでの測定方法や原理などの説明も行ったりした。

各アトラクションには、学生スタッフを配置し、実験の方法の確認やその結果からどのようなことがわかるかなど、子どもたちに日常生活の中で同じように体験することができる例などを挙げてわかりやすく説明した。

また、測定結果や考察などは、入場時に配布した自作テキストに書き込むようにした。

成果と課題

イベントには、盛岡市近郊の主に小中学生150名程とその保護者が集まった。遊園地の至る所で、親子で協力し自作テキストを抱えながら共に学びあっている光景が多々見

受けられ、この体験学習では科学に強い興味・関心を持たせることができた実感している。そして21世紀を支えていく子どもたちに科学技術の未来へ向けて力強く生きていく確かな自信を育てることができたと確信する。

催しは事故も無く楽しい歓声の中で成功裡に終わり、TV・新聞等の取材も多く好評であった。

参加者の評価も上々で、ぜひ毎年続けてほしいという希望が強かった。また他の遊園地関係者からも「ぜひうちの遊園地でもイベントを行なってほしい」という強い要望が多く寄せられるようになった。したがって我々としては、この種の活動を全国的に発展させ、より一層多くの子どもたちに科学の心とチャレンジ精神を育成していきたいと考えている。



面白実験ショー



楽しみながら結果を記入する参加者

エレキ講座

実施団体名 わくわくエレキ講座の会
連絡先 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学教育学部理科教育講座内
 URL : <http://www.phys.ed.gifu-u.ac.jp/PLab/Naka/elec.html>

団体の概要

「わくわくエレキ講座の会」は、平成12年10月にエレキ講座を開くために、モノ作りに対する子どもの教育環境の貧困に憂いをもつ、岐阜市南東部(本荘・市橋・鏡島)地区を基盤とする岐阜中部西子ども劇場オヤジの会と、岐阜大学教育学部物理学教室内教官・学生有志で構成、発足した団体である。

活動の概要

講座のテーマは、子どもの要求に合ったエレクトロニクス回路を選定するためのアンケート調査をもとに決定し、

(1) 電子オルゴール

- ①オルゴールを鳴らそう
- ②選曲できるようにしよう
- ③箱に入れよう

(2) 電池のいらないゲルマラジオ

(3) 闇夜に光るふくろうランプ

の3テーマ(子ども向け6回、保護者向け4回)の講座を開催した。

ゆめ基金助成金を得てからは、岐阜市科学館の協力で施設(50組

可能)を利用できることになり、岐阜市内の全小中学校に案内・申込書を配付した。定員をこえる申込みがあったテーマでは別の日にも開講し、希望者全員の受講を可能とした。

活動の内容

講座では、ハンダ付けを初めて体験したり、アクリル板や木材の切断・研磨、ドリルでの穴あけ、ネジ目を立てて締める、などの作業を子どもが行う。そして最終的には、子どもの好きな形・色の容器にちよとした加工を施し、回路を入れて完成させる。

この講座で特に重視したのは、保護者の方々の参加と、原理を子どもにも理解してもらうための“講義”である。

原理については、講座のテキストをできるだけ分かりやすく作成し、それをもとに学生たちが内容の議論を重ね、さまざまなアトラクションも交えて講義した。

若い保護者の中には、「ハンダ付けなんてどうするの?」という方が多く見られたため、講座を親子の信頼関係を深める場としても位置付け、

子ども向けの講座の前に、保護者向けの「手習い」の日を設定した。

成果と課題

ドリルでの穴あけを、「こんなおもしろいことってあったの?」と目を輝かせる中学1年の女子生徒、ハンダ付けの虜になった小学生たち、ゲルマラジオのアンテナをいろいろな方角におくために走り回る小学生たち、完成したときの子どもたちの明るい笑顔がとても印象的な講座となった。

保護者向けの「手習い」の日には、ほぼ90%の保護者が参加し、当日の活動で子どもたちの信頼を得ることができた。

講座を開いて、ゲルマラジオのように単純な機構ほど、子どもたちの疑問の目を開かせることができると感じた。ICを並べて製作するテーマより、大きなインパクトを与えた。一方、理科離れが始まる中学生の参加が少数であったことは、テーマ・内容の魅力、小中学生は別講座にするなどの開講方法などの工夫が、今後の課題である。



ゲルマラジオの原理を説明する学生



約50組が参加したエレキ講座

全国高校生天体観測会

実施団体名 高校生天体観測ネットワーク
連絡先 〒341-0003 埼玉県三郷市彦成3-325 県立三郷工業技術高校内
 E-mail : suzuki@astro-hs.net URL : http://www.astro-hs.net/



しし座流星群の写真観測準備風景

団体の概要

1998年のしし座流星群を機会にはじまった「全国高校生天体観測会」は、高校生が同時に天文現象を観測する取り組みである。1999年には海外の高校生も加わり、2000年以降には望遠鏡などの機材を使った観測も始められ、様々な天文現象に対して企画を行っている。

観測会組織は年度計画を作成する『運営委員会』を中心に、会計・事務を担当する『事務局スタッフ』、観測マニュアル作成や技術指導を担当する『観測スタッフ』、および広報を担当する『Webスタッフ、広報・渉外スタッフ』など分担して進められている。運営委員会は高校教員、社会教育施設職員、大学などに属する研究者、アマチュア天文愛好家など、様々な職種・立場の方が携わっている。さらに、参加した高校生のOB、OGたちも補助スタッフとして活躍している。

活動の概要

全国の高校生が同じ方法で同時に天文現象を観測する。方法は出

来るだけ簡単なものとし、多くの高校生が自然現象を直接体験できることを目指している。さらに、高校生が得た全国規模のデータを積み上げることによって、量的な有利性を活かして科学的な成果を得るという取り組みである。

活動の内容

観測会への参加は高校生を中心としたグループ単位で行う。グループに必ず大人の責任者(指導者)をおくことにしている。これは夜間の活動のため、安全面への配慮が強く要求されるからである。

観測会に参加するには、インターネットや最寄りの参加グループに連絡して、参加要項をとりよせ、グループの責任者は要項に必要事項を記入・押印して、葉書で参加申込をする。登録申込受付後、事務局から登録番号や観測方法などの資料を送付する。

ほとんどの資料は、Webページでも入手できるようにしてある。資料にしたがって、それぞれのグループが工夫をしながら観測を行い、そ

の結果を事務局に報告する。

観測に必要な特殊機器の貸出も行っている。報告されたデータは集計され、全国のすべての観測データが、参加者全員に配布される。配布されたデータをもとにして研究をしたり、発表をするための質問や相談にも応えている。

成果と課題

これまでに全国の数百グループ、1万人を越える高校生がこの観測会に参加してきた。参加した高校生のほとんどは本格的な天体観測をした経験はなく、星空を観ることの楽しさや難しさなどを体験して成長し、観測会を通じて知り合った他のグループの参加者との交流も始まっている。また、観測成果は参加した高校生の手により日本天文学会や、各地の科学発表会、コンテストなどで発表され、高い評価を受けている。

2001年度のテーマのひとつであった「しし座流星群観測会」では、本助成金によって借入れた40台の高感度ビデオカメラが参加グループに貸し出され、大きな成果を得た。かつてない規模のネットワーク流星観測を高校生が成し遂げたことに対して、世界中の研究者、教育・普及関係者から驚嘆の声が上がっている。

高校生の興味を引き付け、誰もが観測をしたくなるような天体現象は、それほど多いわけではない。しかし、今まで何となく見過ごしていたテーマでも、工夫次第で大きな感動を呼ぶ観測会になることをこの高校生天体観測会は証明していると思う。

ラリーボールで遊ぼう

実施団体名 ラリーボールで遊ぼう実行委員会
連絡先 東京都西東京市
 TEL：0424-23-5159

団体の概要

旧保谷市と田無市が合併して西東京市になったことを契機として、市民の融和とノーマライゼーションの確立された町づくりと新たな青少年教育の構築を目的に、市内の少年野球などのスポーツ指導者、保護司、公務員、教員経験者、会社役員など約20名で平成13年6月に組織された任意の団体である。

活動の概要

平成14年2月、小学校5・6年生約50人と市内の障害者40人が、障害に関係なくゲームを楽しもうという趣旨で、市内のスポーツセンターにおいて日帰りのプログラムを組み、参加者が楽しみながら交流する活動を実施した。

活動の内容

ラリーテニスと野球を混合させた新創造球技「ラリーボール」や円形の布にボールを投げ入れて布を上下させながらボールを弾き飛ばすゲーム、障害物競走、スポンジ製のボールをラケットで打つゲームなどを実施した。



色とりどりのボールが舞い上がり、歓声が

団体にとって、子どもの交流体験事業を企画するのは初めての経験であり、広報、経理、交渉などの作業を適任者で分担して事業に取組んだ。

より多くのボランティアスタッフの確保、トイレの問題への配慮、障害者の保護者の心理面への配慮、保護者の中から看護師資格を有する方による医療チームの結成など、運営面で様々な工夫をこらした。

成果と課題

参加した子どもたちの中には、日頃から野球などのスポーツに親しむ子どもも多かったが、障害者との交流を通じて普段何気なくやって

いる「体を動かすこと」に対する感謝の気持ちを表した子もいた。

また、実行委員にとっては、事業を企画する際に、市内の障害者施設等をまわり、施設担当者や家族の方々と対話することで、障害者との交流といっても一人ひとりの障害の状態が違うことがわかり、実行委員が当初考えていたスポーツやゲームの種目も実施するには一工夫する必要があることがわかった。このように、障害者に対する理解をより一層深めることができ、今後、同様の事業を企画・運営する際のノウハウを蓄積することができた。

今後は、このようなノウハウを活かして、参加する子どもたちが当日のプログラムだけでなく、企画の段階からかかわるような仕掛けを講じることによって、障害やノーマライゼーションについて理解し、効果的な事業を展開することも課題のひとつである。



定番のボール送りも楽しんだ

中学生の夏休み体験

実施団体名 臨港中学校区地域教育会議
連絡先 〒210-0851 神奈川県川崎市川崎区浜町2丁目11番22号
 TEL : 044-333-5537 E-mail : miyakosi@crocus.ocn.ne.jp

団体の概要

地域教育会議は学校関係、行政、町内会、青少年団体等からの委員と自主参加の住民委員で構成されている。川崎市教育委員会の提唱で平成2年度試行に始まり平成10年、川崎全市の7行政区と51中学校区に設置された。

活動の概要

中学生を主な対象にした夏休みの体験企画は、臨港中学校区地域教育会議の事業として平成11年から実施されている。企画は日頃学校や家庭ではできない実社会で働くおとなの姿に触れたり、地域の人々と楽しく出会えるようにと、各種事業体での職場体験や福祉施設でのボランティア体験、町内会のおみこし担ぎの機会を提供するものである。



幼稚園で子どものお世話をする中学生



幼稚園で鉄棒を教える中学生

活動の内容

事業の実施にあたっては、事業体への依頼、受入条件の確認を行い、夏休み前に地域内外約40ヶ所の体験先リストを生徒に示した。図書館、市直営のごみ収集事業、保健所、保育園、病院、障害者の作業所、デイサービス、新聞店、写真店、パン屋、コンビニ、そば店、内装業、土建業などである。この中から生徒が関心のあるところを自由に選択し、参加希望を申し込む。

13年度は体験学習に170名、おみこし担ぎに100名が参加した。

参加者が多いのは、次の要因と考えている。

- ①生徒の実社会への関心がとても高い。
- ②体験先にバラエティがあるので興味を引く。
- ③受入側も工夫を凝らしてメニューを考えてくれる。
- ④おみこし担ぎと体験学習を同列に呼びかけたことが生徒の間に地域社会に参加する楽しさとして広がった。
- ⑤先生自ら生徒と共に体験したり、おみこし担ぎをしたりして生徒を

励ましている。

体験活動の内容にも深いものがある。体験は生徒本人と事業体の条件次第で何日でも可能であり、体験先についてもいくつでも選択できるようにしているので、自主的意欲を伸ばしている（13年度では一人平均3日の体験となっている）。

成果と課題

感想文には生徒の感謝の言葉がたくさん書かれ、また事業体からは生徒の力を認め励ます言葉が多く世代間の良い交流の輪が広がっていくのが感じられる。

おみこし担ぎは町内最大の行事である祭礼時に受入れてもらうものであるが、地域に若者が帰ってきたと歓迎されている。年に一度の中学生の晴舞台という様相すらあり、日頃先生の手を焼かしているような生徒でもこの日ばかりは主役の顔である。1日だけではあるが先生も参加して学校と地域が連帯感を高める大きな効果をあげている。

高齢者とのふれあい交流活動

実施団体名 開聞町子ども会育成連絡協議会
連絡先 鹿児島県揖宿郡開聞町
 TEL：0993-32-3113

団体の概要

開聞町は鹿児島県薩摩半島の南端に位置し、薩摩富士の別名で呼ばれる「開聞岳」が聳え、美しい自然環境のもと農業が盛んな町である。

開聞町子ども会育成連絡協議会は、昭和53年7月に設立されており、現在は会長1名、副会長3名、運営委員15名で組織されており、2つの小学校区、25単位子ども会の健全育成に努めている。

子ども会運営研究会や子ども会大会、七夕飾りコンクールなどの事業を実施している。

活動の概要

平成14年4月から完全学校週5日制が始まり、子どもたちが家庭や地域で過ごす時間が多くなることから、地域の高齢者と顔見知りになり、気軽にあいさつや言葉を交わせるようになるために、「ふれあいグラウンドゴルフ大会」を企画した。

募集の方法については、町内の全戸数(約2,800世帯)にチラシを配付した。また、子ども会育成会や老人クラブなどの団体、グラウンドゴルフやゲートボールの愛好者などに広く呼びかけた。

活動の内容

地域の子もたちと高齢者との交流を目的としたことから、参加が得られやすいように小学校区の中心にある運動場、2会場で大会を実施した。

①開門校区:開門運動場

参加者128名(大人43名、子ども85名)

①川尻校区:川尻運動広場

参加者89名(大人37名、子ども52名)

それぞれの会場で、町グラウンドゴルフ協会の指導者がルールや競技について説明を行った。

町子連からはスティックの取扱方法など、KYT(危険予知トレーニング)指導を行った。

そして、高齢者と子どもたちを交えた5人1組でチームを作り、前後半8ホールずつの計16ホールで親睦を深めた。

スティックをうまく握れなかったり、逆に持ったりしている子どもを見つけると、優しく教える高齢者の姿があちらこちらで見られ、競技が進むにつれてコツをつかみ、打数が少な

くなっていった。最初は遠慮がちに会話をしていた子どもたちであったが、だんだんと会話や笑い声が多くなっていった。

成果と課題

グラウンドゴルフを経験したことがない子どもが多いことから、町グラウンドゴルフ協会に競技の指導を依頼したことで当日の運営がスムーズにできた。

今回は校区単位で実施したが、今後は自治公民館単位など、近所のおじいさんやおばあさんとの交流を深められるような活動にしていきたいと考えている。



足の位置をこうするとねらい通りにくよ

「一人ひとりが主役!」 ～ラジオドラマ体験教室～

実施団体名 BIG MOUSE Revolution(BMR)
連絡先 兵庫県神戸市
 E-mail : info@bmr-2000.net

団体の概要

BIG MOUSE Revolution(BMR)は、宝塚市文化振興財団が育成する中・高校生の劇団「BIG MOUSE」の卒団生が中心となって、平成12年1月に設立した団体である。

日頃は、演劇を中心とした地域文化・芸術の創造活動を振興するために、ワークショップや勉強会を行うほか、近隣で開催される文化イベントにスタッフとして協力し、団体間の交流を図っている。

活動の概要

平成13年度に実施した活動は、ラジオドラマ(放送劇)を子ども達が実際に創る過程を体験するという事業である。

この活動に取り組むことができたのは、もともとわたし達のメンバーには舞台演劇の経験があり、また、ラジオドラマ制作のノウハウがあったということも一つの理由であるが、平成12年9月に宝塚市に開局したコミュニティFMから録音スタジオや機材の借用などの協力が得られたことにもある。

活動の内容

ラジオドラマ体験教室のプログラムは以下のとおり行った。

- ①オリエンテーション、キャストイング、台本読み合わせ
- ②台本読み合わせ、音響(効果音、音楽)実習
- ③台本読み合わせ、録音
- ④編集作業、完成した作品の試聴、

感想発表

- ⑤台本読み合わせ、音響(効果音、音楽)実習
- ⑥台本読み合わせ、録音
- ⑦編集作業、完成した作品の試聴、感想発表

②～④と⑤～⑦は、同じ作業であるが、参加者を演技するキャストチームと録音編集するスタッフチームに分け、2回目はチームを交替することにより、キャストとスタッフの両方を体験できるようにプログラムを組んだ。

指導者には、演出・演技指導1名、音響指導1名、録音編集1名と総括講評1名の方、各ジャンルのプロにお願いした。

成果と課題

演技については、間の取り方とアクセントにポイントをおいて、丁寧

な指導を受けながら、参加者がお互いに注意し合って、高めあった。

録音作業では、指導者の援助を受けながら、緊張しながらもなごやかに行うことができた。

また、編集作業では、丁寧な説明を受けたものの難しい作業の部分は指導者に助けて頂くところも多かったが、通常ではなかなか出来ない体験をして、みんな満足していた。

この体験活動を通して、演技や録音編集などの技術そのものの上達だけでなく、表現力、想像力、創造力が養われるとともに、一つの作品を共に創っていくことから協調性も向上したように思える。

また、各ジャンルのプロから指導を受け、質の高い文化芸術にふれるという貴重な体験ができたのではないかと思う。



ふれあい農場体験事業

実施団体名 ハートフル地域交流実行委員会

連絡先 〒939-1398 富山県砺波市栄町7番3号 砺波市教育委員会生涯学習課内
TEL：0763-33-1111 FAX：0763-33-6828



イブリによる田ならし

団体の概要

ハートフル地域交流実行委員会は、砺波市内の地区公民館、青少年育成砺波市民会議、各小学校、小学校PTAを母体として、地域ぐるみの青少年活動を支える会として、平成11年4月に発足した。現在、砺波市内の子どもたちの健全育成に向けた活動を企画・実施するとともに、各地区の子どもの健全育成について助言指導活動を行っている。

活動の概要

ふれあい農場体験事業は、自然環境とのふれあいや子どもの創造性と自立性の育成を目的とし、休耕田を借り受け、農業体験活動として実施したものである。

活動の内容

本事業では、瓢箪^{ひょうたん}、へちま、各種野菜、ハーブなどを栽培し、転作田が色々な作物で埋め尽くされた。

実施した転作田は、総称として「ふれあい農場」と呼び名を付け、子

も達の親しみやすい場所とした。

農園は林公民館を中心に地域の各団体やボランティアで運営した。

活動は、4月の転作田の耕起から始まり、米や野菜の定植、管理、収穫の一環作業を地区内の指導者、ボランティア、小学校、幼稚園の協力を得て実施した。

耕起や刈り取りなど農作業の主要な作業は地区の大人や親が行い、日々の管理は子ども達が行った。子ども達は、転作田の石拾いから始まり、水田では代掻きをイブリやハシゴを使った田ならし、田植えのための定規ころがし、田植え、草取り、鎌を使った稲刈り、によう干し、脱穀を千歯こきで行うなど、昔ながらの米作りを体験した。

畑では、野菜やハーブの定植、草取り、補植、収穫を体験した。

また、収穫した作物を使い、地区の老人会の協力を得て昔ながらのおやつ作りを行い、お返しに敬老会用にハーブを使ったクッキーを作った。

12月には収穫祭として、小学校PTAと協力してもちつき大会を行い、地区内の一人暮らしの老人宅に子ども達が配達し喜ばれた。

成果と課題

学校と地域がお互いを認め合う活動ができたと思う。農場は、学校の登下校時や休み時間には自分達がつけた作物を見にくる子ども達で一杯になり、また、家に帰ってから祖父母と一緒に支柱を持参で来たり、土日になると家族総ぐるみで世話をに行いにくるなど、確実に「ふれあい農場」を通して人と人のふれあいの場が広がっているように思える。

子ども達は何処で会っても地域の人々に「こんにちは」と気軽に声を掛けてくれるようになった。

子ども達が、農作業を通して身近に自然との関わりを体験することは、生きる力の原動力になると信じ、もっと多くの人々の理解を得てこの事業が、広く浸透していくことを願っている。

「あのね」のおはなし配達

実施団体名 たかとり絵本を楽しむ会「あのね」

連絡先 〒635-0143 奈良県高市郡高取町車木468-1

TEL：0745-62-3659 FAX：0745-62-3695

団体の概要

子どもたちに良書を与えたいために、たくさんの絵本に出会う機会を作ろうと、1994年7月に会を発足。情報社会の一方的音声伝達文化の中で、人の声のあたたかさや気持ちの交流が、地域の中で子どもを育てることになると信じ、活動を続けている。地域の幼稚園、小学校、子ども会など、活動範囲も広がっている。おはなし会が地域で定着を始めたことで、読書活動推進のためのおはなし会の定例化を目指し、おはなし会を企画・実施した。

また、読書活動や読み聞かせは、知識・理解などの力をつけることはもちろんのこと、子どもとの結びつきを持つために重要であることを保護者に知ってもらうために絵本講座を企画、実施した。

活動の概要

子どもたちに読書への興味と意欲を引き出し、読書活動を活発化させるために地域の公民館において「おはなし会」を開催した。

更に、子どもにとっての読書活動の重要性を認識し、家庭内で読書推進を図るため、保護者対象に「絵本講座」を開催した。

これらの活動により、すこやかで心豊かな子どもを地域で育てることを目指した。

活動の内容

土曜日・日曜日を中心に、高取町内の子どもたちを対象に、地域の公民館において「おはなし会」を開催した。高取町内の幼稚園や小学

校の保護者や各種団体等を通じて、各回40人の子どもを募集して実施した。

活動内容は素話、ブックトーク、紙芝居、人形劇、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアター等で、6月から3月までの間に計20回活動した。

保護者を対象とした「絵本講座」は、6月から12月までの間に各回30人の募集を行い、5回実施した。

講座のテーマは次のとおり。

- ①子どもたちに豊かなことばと心を
- ②絵本って楽しい
- ③夏休み子どものおはなし会
- ④絵本の楽しさを子どもたちに
- ⑤絵本の選び方 語り方の実際

成果と課題

子どもたちに本を読み聞かせることの大切さ、本の選び方を考えるなどの家庭へのアピールのために行った「絵本講座」には、たくさんの方の参加と多くの反響をいただ

いた。地域への「おはなし配達」では、たくさんのおはなしを語ることができた。「あのね」の貸出本も多くの手に渡ったし、図書館への意識も高まり、子どもたち一人ひとりの読書活動を家庭、地域、学校で支えていくことにつながった。

子どもたちからは、「〈手紙〉は面白そうですね。ぼくも帰ってだれかに手紙を送ろうと思います。」「あの本を借りて一日中読みたいです。2冊とも良かったから2冊とも読みたいです。」など、読書に対する関心が高まったことが伝わる感想が寄せられた。

また、保護者からは、「『良い絵本を読むことで、子どものかかわりができる。』と、子育てのアドバイスを受けました。」という感想をいただくなど、当初の目的を達成できたものとする。



ぬいぐるみを使っでの「おはなし会」

子育てと子どもの本の楽しさづくり講演会

実施団体名 古賀子どもの本の交流会
連絡先 福岡県古賀市
 TEL：092-943-7541



おはなしおぼさん 藤田浩子さん

団体の概要

子どもの読書環境づくりを目的として、文庫の連絡・育成及び関連団体や個人が共に地域での働きかけを行うため、子どもの本の普及・紹介や読書会、学校・図書館・保育園・福祉施設などでお話会を実践する団体として、昭和62年4月に設立した。

活動の概要

「2000年子ども読書年」は、子どもの読書に興味がある人だけでなく、それほど関心が無かった人にも影響を与えたものと思われるが、それもまだまだ一部のようなのである。

そこでこの機会をとらえ、子どもから大人まで対象の読み聞かせ(お話会)を開くと共に大人のための研修会を実施することとした。

活動の内容

平成13年4月23日から平成13年11月30日まで、次の6活動を実施した。

(1) アメリカのストーリーテラーを楽しむ

小・中・高校生を対象に英語でのストーリーテリングを実施した。

(2) 日本のストーリーテラーを招いてのお話会

午前のピアノ演奏を交えてのお話会は小学生40人を対象に実施したが、予想以上の参加があった。午後からは大人を対象に実習会を実施した。

(3) 絵詞作家の講演会

中央公民館において、「いいかげんはよいかげん」というテーマで、絵詞作家を招いての講演会を実施した。

(4) 「かがくであそぼ!」

読書活動の参加者は女性が中心になりがちであるため、男の子や大人の男性にも当団体の活動に関心を持ってもらうため、科学マジックの手ほどきを受ける活動に取り組んだ。

(5) 福島弁で聞くおはなし

親子を対象に、聞くことの楽しさを体験してもらうお話会を実施。赤ちゃんへのおすすめ絵本やわらべ歌遊びなどのリストを配布した。

(6) 「風を聴く」

「お話会」「リコーダー演奏会」「リコーダーを吹いて演奏会」の3部構成で実施した。当会からのお話実演も加わって、講師の方々の素晴らしい演奏といろいろな種類のリコーダーを楽しんだ後、子どもたちはリコーダーのレッスンを受けた。

成果と課題

アメリカのストーリーテラーを体験した参加者の中に、参考資料をもとに実践する方がおり、活動の広がりを実感した。

講演会の参加者からは、「絵本の講演会を初めて聞いたが、こんなに面白いとは知らなかった」という感想があった。

「かがくであそぼ!」は、マジックの手ほどきを受けるということもあって、人気が高かった。他のグループとの連携でスムーズにできた。父親の参加もあり、このような活動に関心を持っていただけたのではないかと考えている。

お話会では参加券でキツネの折紙を作り、遊び方を教えたのが好評だった。

多くの活動を取入れたものだったが、団体の会員の向上心があることが何よりの力で、成果も得られたのではないと思う。素晴らしい講師を迎えられたことでいきいき、わくわく、どきどきと本の世界を探検したと思う。遠くへ行かなくても、地域で親子で読書を共通体験し、大人の方は読書のパイオニアとして活動が広がっている。

おはなし会ボランティア活動

実施団体名 イクタン号G0
連絡先 〒969-1204 福島県安達郡白沢村白岩字堤崎500番地 しらさわ夢図書館 武田美代子
 TEL：0243-44-2112 FAX：0243-44-4284
 E-mail：yume-lib@will.shirasawa.fukusima.jp

団体の概要

平成9年11月に村内の「しらさわ夢図書館」の読み聞かせボランティアとして発足した。現在の会員数は39名、30代から60代の女性が主で、図書館、幼稚園、保育所、小学校などでのおはなし会を中心に活動している。

その他にも、村に伝わる民話を伝承劇にしたり、デイサービス訪問、村内の行事への積極参加など、地域に根ざした活動を行っている。



「りゅうになったおむこさん」に聞き入る子どもたち

活動の概要

小学生を対象にしたおはなし会を開催するとともに、幼児・児童の保護者を対象として読み聞かせや語りかけの効果・方法について講習を行った。

活動の内容

図書館でのおはなし会は「ジュニアおはなし会」（小学生対象）と、「リトルおはなし会」（幼児対象）の年齢別に分けることによって、小学生向けには少し長めのお話や語りなども取入れた。

時間は60分だが、読み聞かせの他、紙芝居やパネルシアター、工作なども取り入れ、飽きない工夫をし、毎回20～30人の参加があった。

また、長期休暇（夏休み、冬休み、春休み）には「特別おはなし会」と称して時間を90分に拡大し、寸劇や人形劇、歌、手品、大型紙芝居などもプログラムに取り入れ、年齢を問わず楽しめるように工夫した。

手作りのプレゼントを用意するなど、毎回80～100名と思いのほか多くの親子に来てもらうことができ、「イクタン号G0」の名前と活動を

知ってもらうには絶好の機会となった。

読み聞かせ講習会は、読み聞かせの楽しさや重要性を保護者にも認識してもらうため、講話とおはなし会を一緒にして開催した。隣町から講師を招き、「子どもにもっとおはなしを」という講話をいただいた後、他の読書活動グループの会員による読み聞かせの実演を行った。

成果と課題

講習会后に、お互いにおはなし会活動の意見交換なども行うことができ、サークル同士の交流も図れる貴重な機会となった。

子どもたちは面白くないければ、楽しくなければ来てくれないというのが現実。絵本やお話をより魅力的に伝えられるよう、研修会などを充実させ、会員の技術のレベルアップを図り、より良いものを子どもたちに届けられるよう勉強していくのが今後の課題ではないかと思う。



パネルシアターを見つめる子どもたち

山の木文庫おはなし会 ～子どもと本を楽しむために～

実施団体名 山の木文庫
連絡先 東京都世田谷区
TEL：03-3484-7176 FAX：03-3484-7176
E-mail：hfukuda@m.u-tokyo.ac.jp



大人も子どもも楽しく「わらべうた」を

団体の概要

東京都世田谷区のはすれにある「山の木文庫」は、子どもに読書の楽しさを伝えたいと願う母親たちが協力して運営し続け、平成15年に設立30年を迎える。運営するスタッフは仕事を持つ人や小学生の母親、孫のいる人などさまざまだが20人ほどである。

10年ほど前に、定員制で3歳未満の幼児とそのお母さんのために、奇数週の金曜午前中、おはなしと本の貸し出しをする「ひよこ」クラスを始めた。

また、近隣の小学校や図書館、児童館などからの依頼を受け、出張おはなし会を実施している。

活動の概要

子どもに読書の楽しさを伝えるために、地域の大人を対象におはなしや読み聞かせ、子どもの本の選

び方などの学習会を実施した。また、子どもを対象としたおはなし会も実施した。

活動の内容

平成13年度に始められた「子どもゆめ基金助成」の実施を知り、活動の広がり求め、地域の人もいっしょに参加できる研修の場をつくってみようと考えた。

そこで、地域の大人各回20人を対象に、次のようなテーマで4回の学習会（公開おはなし会）を実施した。

- ①親子でたのしむ語りの世界
- ②赤ちゃんから大人まで お話しいっぱい
- ③2001年子どもの本をふりかえって
- ④お話しを聞く楽しみ、語るよろこび

実施時期が2月から3月という年度末の慌ただしい時だったが、毎回募集人数を大きく上回る50名以上の参加者があった。

子どもを対象としたおはなし会は、第4土曜日を中心に、10月から2月まで毎月1回（12月のみ第1土曜日）、計5回実施した。

成果と課題

招いた講師は、夫婦で全国を廻って公演している方や、アメリカにまで活動を広げている方、静かな語りの中にも情熱を感じさせる方など、みな実力があり参加者たちはおはなしにすっかり聞き入っていた。

4回の公開おはなし会を終えて、私達はますますおはなし会に魅力を感じ、そしてその奥深さに気付くようになった。そしておはなしを聞き続けてきた子どもたちのなかには、おはなしを語るようになった子どももいる。今後もさらに子どもたちに読書の楽しさを伝えるため、おはなし会や読み聞かせを行なっていくと思っている。

大阪子ども読書活動支援事業

実施団体名 大阪子ども読書活動支援事業実行委員会
連絡先 〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北57-3 大阪府立中央図書館内
 TEL：06-6745-0170

団体の概要

実行委員会に参加した団体はいずれも大阪府立中央図書館と関わりのある団体である。中でも視覚障害児を対象とした「わんぱく文庫」は20年の活動実績を持つ民間の文庫で、府立中央図書館の開館を機に図書館内に場所提供を受けて、以前から、図書館と一緒に「おはなし会」などの行事を実施してきた。

そこに、図書館と協力して、講演会等の事業を行ったことのある団体と、図書館で児童書の勉強会を続けてきたサークルが一緒になって、子どもの読書活動支援のために力を合わせることになり、平成13年8月、本実行委員会を設立した。身近な活動拠点にこだわらず、大阪府全域を視野に入れての活動と、「障害児を含めた全ての子どもたちに読書の喜びを」という2つの視点を持っているのが、この実行委員会の大きな特徴である。

活動の概要

講演会とワークショップと原画展



さわる絵本作製講座受講風景

を組み合わせた「ようこそ絵本の世界へ」と、視覚障害児が楽しめるように、「さわる絵本をつくりましょう」というさわる絵本作製講座および、「おはなしボランティア養成講座」を実施した。

活動の内容

- ①「ようこそ絵本の世界へ」の企画・実施にあたっては、子どもたち自身が楽しめる企画で、かつ本物に触れる感動を味わってほしいと願い、絵本作家と一緒に絵を描いたり、絵本を読みあたりできるようなワークショップと原画展を組み合わせた。また、親向けには講演会を開催して、読書の意義や絵本の見方や作者の意図を学んでいただいた。
- ②「さわる絵本を作りましょう」は、本選び、材料の用意、作り方のイロハから学習し、4冊のさわる絵本を作製した。
- ③「おはなしボランティア養成講座」は理論をおさえ、徹底した実技指

導も盛り込んで、即戦力となるような講座となるよう企画した。読書の楽しさを知ってもらうためには、おはなしボランティアが多ければ多いほど、子どもたちにお話が届けられる。

成果と課題

「ようこそ絵本の世界へ」は多くの参加者を得て読書の掘り起こしにつながった。参加者からは「絵本の見方、作者の考えなどがよく分かった」と好評であった。子どもたちは絵本作家と一緒に絵を描いたり、絵本と一緒に読んだりして、楽しくかつ、心に残る催しとなった。絵本原画展も多くの人に感銘を与え、また企画してほしいとの声が多く寄せられた。

「さわる絵本を作りましょう」受講者のうち、数人は製作グループに入って、その後も絵本作りを続けている。視覚障害児の楽しめる絵本は数えるほどしかない。製作に多大な時間とお金と労力がかかるからである。しかし、今回の活動により作製したさわる絵本を、図書館を通じて視覚障害児に提供することが可能になった。

「おはなしボランティア養成講座」受講者は実行委員会会員がバックアップして、自主的な勉強会を継続中であり、平成14年秋に子どもゆめ基金の助成活動として実施を予定している活動に、ボランティアとして参加予定である。

今後とも団体間の連携をより、いっそう深めていくことと、ステップアップ講座の実施が今後の課題である。

「こどもと本ジョイントネット21・山口」推進事業

実施団体名 こどもと本ジョイントネット21・山口
連絡先 山口県山口市宮野下678-7
 TEL：083-924-8745 FAX：083-924-8745
 E-mail：yama819@ninus.ocn.jp URL：http://www6.ocn.ne.jp/joynet



絵本作家と動物園を作ろう!

団体の概要

こどもと本ジョイントネット21・山口（略称:ジョイネット）は、事務局と運営委員、応援団、ベースキャンプで構成されている。

運営委員会では具体的な活動計画、推進方策などについて協議する。

県内18箇所にあるベースキャンプとは、隔月で開催されるジョイネット会議において事業の総合調整や情報交換等を行う。

ジョイネットは、子ども読書年の年が明けた2001年5月に発足した。前年の「山口の子ども読書年」推進実行委員会の活動を継承しての発足である。「山口の子ども読書年」推進実行委員会の活動が、現在のジョイネットの活動の基盤となった。

活動の概要

ボランティアや図書館等と連携を図りながら行うお話会の出前、ゲストを招いて、絵本の世界を楽しむ会、読み聞かせの基本的なことからを研修するための講座など、ネットワ

ーク組織という特徴をいかした幅広い活動を展開した。

活動の内容

幼児、小学生及びその保護者を対象として実施した「おはなしの出前」は、おはなしボランティアのスタッフを募集しながら、地域を越えた活動として県内各地で実施した。

毎回、絵本作家などのゲストをお招きしながら絵本の世界を楽しむ「やまぐち絵本楽会」は、活動を広げていくために偶数月は山口市以外の会場で実施した。

また、「絵本の読み方基礎講座」は、読み聞かせボランティアへの関心が高まる中、ボランティアとして活動したいという方を対象に基礎的な知識と技能を身につけてもらい、子どもの読書活動に関する取組の裾野を広げることを目指し県内各地で8回実施した。

事業を推進するにあたって考慮したことは、ジョイネットの活動が県下全域に広がってほしいという思い

から、個々の活動が一つの地域に限定されずネットワーク拡充につながるような中身にするということである。このため、各地域ベースキャンプ担当者が集まる「ジョイネット会議」において、活動の総合調整や情報交換を行った。

この他、機関誌「ジョイネットつうしん」による情報発信や、子どもの本の作家による「課外授業」と講演会を実施した。

成果と課題

「絵本の読み方基礎講座」では、読み聞かせに対する関心の高まりを強く感じた。対象年齢別の講習が今後の課題である。

「おはなしの出前」は、ボランティア相互の交流にもつながっている。

「子ども知恵図鑑」

実施団体名 ワールドスクールネットワーク
連絡先 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-5-16 本門ビル4F
 TEL：03-5294-1441 FAX：03-5294-1442
 E-mail：info@wschool.net URL：http://www.wschool.net/

教材の概要

子どもたちが自分たちの体験や発見をできるだけ簡単にインターネットに掲載し、世界の仲間と交流ができるように工夫した「参加型オンラインデータベース」である。

題材とするのは、地域の環境と暮らしを調和させるさまざまな「知恵」。子どもたちは知恵を探し体験する。その知恵を世界各地の仲間とともにオンラインの図鑑として集積し、見比べ、議論することを通じて、地球的視野での環境学習を展開する。

教材の活用法

「子ども知恵図鑑」の最大の特徴は、利用する子どもたち全員が情報の受け手であり発信者である点である。子どもたちは自分たちの活動をもとに、報告や意見を書き込む。情報は参加者全員で共有され、それに対してまた新しい情報を投げ込むことができる。

2002年4月の公開当初、「ふるさと食堂」「にっぽん旅図鑑」「My知恵」の3つのカテゴリーからスタートした「子ども知恵図鑑」は、わずか3カ月で、「メンバー図鑑」「メンバーひろば」「世界の知恵」を含む6つのカテゴリーをもつ図鑑に成長した。

「ふるさと食堂」「My知恵」「メンバー図鑑」「メンバーひろば」では、子どもたちが自分たちの活動や地域でのことについて書き込んでいる。この書き込みが、他の地域の子もたちとのやりとりになり、同じ興味をもった子どもたち同士の議論が、さらに新しいカテゴリーへと発展し

ていく。子どもたちは自分たちで見つけた課題にそって次々と共同学習を展開していく。

「にっぽん旅図鑑」「世界の知恵」には、大人の「環境特派員」からのレポートが掲載されている。日、米、英など、世界各地で環境特派員が見つけた知恵を図鑑を通して子どもたちに報告している。

「子ども知恵図鑑」では、自分たちの報告をするだけでなく、環境特派員や他団体の子どもたちからの生きた報告を読み、やりとりをすることができる。

また多くの情報を検索・閲覧して、後の学習活動に役立てることもできる。

自分たちが体験し、調べた結果を仲間に報告し、自分の地域との違いや共通点などを発見し、地球的視野を養いながら、さらに新しい体験へと触発されていく大きな循環を、極めて柔軟に育てていくことができる。

教材の普及方法

この「子ども知恵図鑑」を利用するには、二つの方法がある。

検索し、内容を読みだし、教室などで学習や活動に利用するには、何



「子ども知恵図鑑」トップページ

の制限もない。ワールドスクールネットワークのウェブサイト(上記参照)経由で「子ども知恵図鑑」に接続し、閲覧、検索、読み出しが可能である。

新たな情報を掲載するには、著作権や個人情報の保護などの観点からワールドスクールネットワークの参加団体になっていただき、IDとパスワードを使って書き込みをする。

利用方法についてのマニュアルも作成し希望に応じて配付するようにしている。

「キッズネイチャープログラム」

実施団体名 社団法人日本環境教育フォーラム
連絡先 〒150-0022 東京都新宿区新宿5-10-15 ツインズ新宿ビル4階
 TEL：03-3350-6770 FAX：03-3350-7818
 E-mail：info@jeef.or.jp URL：http://www.jeef.or.jp/



「キッズ・ネイチャー・プログラム」のトップページ

教材の概要

子どもたちが「自然と遊ぼう」と思ったときに、子どもが自らCD-ROM教材を活用することで、自然と遊べるようになるための「自然体験プログラム集」として発行したのが「キッズネイチャープログラム」である。CD-ROMならではの動画も一部に採用した。

全体は大きく「自分で遊ぶプログラム集」「仲間と遊ぶプログラム集」のプログラム紹介と、「アクティビティを楽しむために」の解説部分の3部に分かれている。

教材の活用法

「自分で遊ぶプログラム集」はどちらかと言うと低学年から中学年向けの内容で、笹舟作りや葉っぱの笛など、かつては子どもなら誰でも遊んでいたようなごく簡単な遊び方を、動画とともに14種類紹介している。

「仲間と遊ぶプログラム集」では、

小学校中学年から中学生向けの内容で、楽しみながらも自然のしくみを理解したり、自然と人とのかかわり、自然の大切さを学べるようなアクティビティを56種類紹介している。

また「総合的な学習の時間」などに、学校の授業として実施することも可能である。特に「生きもの調べに挑戦しよう」の11のアクティビティは、ぜひ学校でも試していただきたいサンプルプログラムである（指導者のためのガイドもある）。

「アクティビティを楽しむために」では、このプログラム集の活用方法を紹介している。

一般的に、ひとつの自然体験プログラムは、「導入」「展開」「まとめ」の3つの要素のアクティビティによって構成されるものである。

「導入」では、プログラムの本体といえる「展開」に入る前に、アイスブレイキング、自己紹介ゲームなどの心ほぐし・体ほぐしや、五感をとき澄ませるようなゲームを行う。

「展開」では、自然を楽しんだり自然を理解できるようなさまざまなアクティビティを体験する。

「まとめ」では、これまで実施したことを参加者が十分に理解し、次の興味につながるようなアクティビティを実施して、プログラムのまとめとする。

教材の普及方法

このCD-ROMは5000枚製作し、文部科学省・環境省共同事業「子どもパークレンジャー」に参加した子どもたち(約1,200名)を通じて、全国の子どもたちに無償で配布した。

また当社団のホームページでもまったく同じ内容のものを紹介している(上記URL参照)。

家族で楽しく安全に過ごすキャンプのすすめ

実施団体名 社団法人日本キャンプ協会
連絡先 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
 TEL：03-3469-0217 FAX：03-3469-0504
 E-mail：ncaj@camping.or.jp URL：http://www.camping.or.jp

教材の概要

家族どうしのふれあい、自然体験の機会などを求めて、キャンプは様々な楽しみ方がされてきた。しかしながら、神奈川県玄倉川での事故が記憶に新しいように、なかなか自然の中で過ごすルールやマナーや自分自身で身を守るという原則について、あまり世間一般に理解が進んでいるとは言えない。そこで当協会ではこの教材を3つのコンセプトのもとに企画・開発した。

- ①キャンプのベーシックな生活技術をわかりやすく学ぶことができること
 - ②小学校中学年以上が親子で遊びながら内容が理解できること
 - ③キャンプの安全、ルールやマナーを正しく伝えること
- いくら正しい内容であっても、楽しくなければ見ようとはしない。また、見るのに長い時間がかかってはすぐ飽きてしまうので、一つのコンテンツを短時間で見られるような作り方の配慮をしながら内容を詰めていった。

教材の活用法

「キャンプちゃんの大冒険」は、主人公であるキャンプちゃんが、キャンプに出かけて行き、はぐれてしまった家族を捜しながら、自然の中で起こる様々な出来事についての課題を解きながらすすめていく、ロールプレイングゲームになっている。課題はキャンプ時の安全に関する



教材を楽しむ子どもたち

ものなどで、ゲーム形式で必要な知識を身につけることができる。

「キャンプちゃんの一泊」は、キャンプを体験する上で必要な用具の使い方・選び方、ロープワークなどをアニメーションを使って、キャンプで必要な生活技術や用具の解説が見られるようになっている。

「安全度チャート診断」では〇×式で、3匹の子豚になぞらえて解答者の安全度を「わらの家タイプ」「木の家タイプ」「レンガの家タイプ」に診断するものである。「〇×クイズ」では、本協会が発行する「キャンプ・インストラクター」資格の試験に匹敵するようなキャンプの知識を50問出題し、キャンプの理解を深めてもらうような内容になっている。

以上のように、家族で楽しみながらキャンプについて学ぶことができるような内容となっている。

教材の普及方法

この内容趣旨に賛同いただいたアウトドアメーカーの協力を得ての無償配布や、アウトドア雑誌、新聞などで取り上げられたことによる入手希望、各都道府県の教育委員会青少年教育担当部局等を通じての青少年教育施設等への配付などにより、当初計画していた5000枚の無償配布を行った。

また、教育関係機関に対して配布した中から、中学校のパソコン部の教材として取り上げられたり、養護学校で言葉の学習の教材として活用されるなど、副次的な活用もあった。

今後は、より多くの方々はこの教材を活用いただくため、一部の内容を協会ホームページに収録し、インターネットを利用した普及を実施していくことを考えている。

京都手仕事サイト

実施団体名 京都伝統産業青年会
連絡先 〒600-8493 京都府京都市下京区四条通洞院東入る郭巨山町11
 TEL：075-213-0540 FAX：075-213-0451
 E-mail：densei@kyomachiya.org URL：http://www.kyoto-handicrafts.com/



「京都手仕事サイト」の職人さんマップ

教材の概要

日本の優秀な工業技術は永年培われてきた伝統の手仕事、技術に起因している。また、伝統工芸品には手仕事のあたたかみがあり自然の中の材料を使っているという点では地球環境にも優しいということでも再び見直されてきた。

本教材は、単に伝統産業の工程や作業内容を紹介するにとどまらず、実際にそこで働く職人さんと仕事としての伝統工芸にスポットを当てている。職人さんの仕事、職人さんの技術を職人さん自身の言葉で紹介してもらうことによって、職人さんの仕事や考え(思い)を多くの子供達に知ってもらうこと、興味をもってもらうこと、そして黙々と仕事に打ち込んでいる姿が「かっこいいんだ」ということを伝えたいという意図をもって作成した。

本教材ではコンテンツの企画の段階から実際に多くの伝統産業に

直接携わる方々にご意見を頂きながら取材を行い、未来を担う子供達に伝えたいポイントを組み込んだ。

教材の活用法

本教材はインターネット版と、DVD版の二種類で構成されている。

インターネット版については逐次内容が更新されていく。

DVD版は基本的には同じ内容だが、ダイジェストとして主にブロードバンドの通信環境がなくても教材を体験できる目的で作成されている。

内容は指導者が活動資料として簡易に利用できるように静止画と文書で構成された部分と、「学ぶ」目的でビデオ映像を利用して、実際の作業、道具の使い方、職人さんのインタビューなどを収録している部分に分かれる。

教える部分と学ぶ部分はそれぞれの関係が解りやすいように関連づけられているので、活動内容に応

じて併用することが可能となっている。

教材の主な構成と概要は次の通りである。

- ① 工房見学: 職人さんの仕事を静止画、動画、文書で紹介する。
- ② 対象分野: 石工芸品、京菓子、西陣織、京友禅、京扇子、京仏具、京人形、京焼
- ③ 工芸図鑑: 伝統工芸品を項目ごとに紹介する。掲載数56品目
- ④ 実験工房: 浴衣の製作工程を学び、オリジナルデザインの浴衣をプリントアウトすることができる。
- ⑤ 映像ライブラリー: 工房見学の動画が分野ごとに一覧できる。

教材の普及方法

<インターネット版>

紹介する業種の追加による内容の充実、職人さん・子供の手仕事コミュニティの形成、オフライン活動(工房見学受け入れ等)の実施など、内容を更新することによる体験活動分野の充実や、実際に子どもたちが様々な体験活動に取り組めるような環境の充実等を図っていく。

<DVD版>

ブロードバンドの通信環境が整っていないなどの理由により、媒体による教材の入手を希望する方に対しては、DVDの実費負担による配布を行う。

平面から立体へ ～みんなでのしく組み立てよう～

実施団体名 財団法人日本視聴覚教育協会
連絡先 〒105-0001 東京都港区虎の門1-17-1
 FAX：03-3597-0564
 E-mail：info@javea.or.jp URL：http://www.javea.or.jp/yume/

教材の概要

CD-ROM「おりがみでゆめをひろげよう!」では、64作品のおりがみのおりかたと、それらを使った遊び方などを紹介している。

ここでは、「おる」という一連の動きを、子どもの目の視点で、アニメーションによりわかりやすく再現し、子どもたちだけでも作品を完成できるように工夫がされている。

〈教材の構成〉

「海へ行こう」～海に関連するさかなや動物など7作品を紹介。

「野原に行こう」～野原にいる虫や動物、植物など7作品を紹介。

「うちゅうへ行こう」～宇宙に関連する乗り物や星など6作品を紹介。

「わたしのおうち」～おうちの中の家具や物など8作品を紹介。

「ユニットおりがみ」～2枚から最大12枚のおりがみを組み合わせて作るユニットおりがみ11作品を紹介。

「おりがみであそぼう」～つくった作品で遊べるおりがみ13作品を紹介。

「おりがみのひみつ」～できた作品をちょっと違った見方をすると別の作品に、途中までは同じ工程でも最後が違えば別の作品に、これまでの作品と関連するおりがみ12作品を紹介。

教材の活用法

画面下の「おりかたを見る」を押すと、キャラクターの解説とともに、ゆっくりとアニメーションが動き、おりかたが表示される。ここでマウスから手を離し、アニメーションの動

きと同じように、おりがみをおる。

また、マウスで「おりかたを見る」を押すと、次の工程が示される。これを繰り返して、おりがみを完成させていく。

もし、おりかたがわからなかった時は「もういちど」「1つ前」「はじめから」などのボタンで、もういちど見てやりなおすこともできる。

この教材ではアニメーションだけでなく、実写によるムービー映像を効果的に活用している。ユニットおりがみの「くみたてかた」や、ハサミを使う場面など「くわしくみる」場合、また「あそびかた」についても実写映像で、わかりやすく解説している。

〈教材の効果〉

教材の開発最終段階で、小学生の子どもたちに試験的に利用してもらい、評価を実施した。

その結果、低学年の子どもたちは、自分の力だけで作品を完成できるため、完成時には「やった!」「完成!」といった声があがり、達成感、満足感を感じているようであった。

子どもたちは1つの作品を完成させても、次々に別の作品をつくりはじめ、2時間はあっという間に過ぎてしまった。

教材の普及方法

全国の児童センターや視聴覚ライブラリ等に教材を配布した直後から問い合わせが多く、約1ヶ月で無償配布分は終了した。今後、入手希望があった場合には実費で配布する予定である。

また月刊『視聴覚教育』誌を通して、この教材を活用した活動事例も紹介していく予定である。



「おりがみでゆめをひろげよう!」のトップページ

平成14年度 応募・採択状況

◇活動区分別応募・採択状況

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	助成額
子どもの体験活動	1,813	1,590	1,141,906
子どもの読書活動	352	322	129,104
教材開発・普及活動	80	28	278,804
合計	2,245	1,940	1,549,814

◇子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
北海道	74	70	41,928
青森県	15	15	5,607
岩手県	32	32	8,534
宮城県	26	22	12,931
秋田県	15	13	3,894
山形県	16	16	5,917
福島県	29	26	15,969
茨城県	39	37	26,055
栃木県	25	23	7,641
群馬県	13	13	7,062
埼玉県	50	40	17,747
千葉県	51	43	23,111
東京都	216	190	389,481
神奈川県	57	50	29,667
新潟県	30	29	17,439
富山県	24	23	17,838
石川県	11	10	3,753
福井県	18	17	9,326
山梨県	19	17	11,684
長野県	75	62	43,963
岐阜県	31	28	17,974
静岡県	50	42	32,462
愛知県	32	25	22,108
三重県	26	22	17,034
滋賀県	70	61	27,247
京都府	109	89	42,281
大阪府	151	132	71,617
兵庫県	68	59	27,769
奈良県	18	15	6,940
和歌山県	20	16	4,861
鳥取県	8	8	3,815
島根県	18	16	7,612
岡山県	26	23	8,381
広島県	11	9	5,154
山口県	27	22	8,013
徳島県	41	36	26,099
香川県	12	11	5,654
愛媛県	15	14	5,743
高知県	12	12	6,710
福岡県	62	50	27,966
佐賀県	15	14	5,078
長崎県	28	26	10,336
熊本県	30	26	19,203
大分県	11	10	3,085
宮崎県	13	11	3,742
鹿児島県	63	56	16,598
沖縄県	11	9	8,877
合計	1,813	1,590	1,141,906

◇子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
北海道	12	11	5,334
青森県	2	2	1,231
岩手県	9	7	1,753
宮城県	2	1	249
秋田県	1	1	125
山形県	6	6	1,513
福島県	12	12	4,076
茨城県	5	5	1,497
栃木県	6	6	1,998
群馬県	0	0	0
埼玉県	6	5	1,709
千葉県	7	7	1,274
東京都	33	32	13,166
神奈川県	11	10	5,907
新潟県	7	6	1,493
富山県	2	1	42
石川県	4	4	2,601
福井県	3	3	453
山梨県	3	3	568
長野県	19	17	4,151
岐阜県	2	2	833
静岡県	7	5	1,250
愛知県	3	2	184
三重県	1	0	0

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
滋賀県	18	18	8,604
京都府	23	21	7,873
大阪府	40	35	12,042
兵庫県	8	7	6,119
奈良県	5	5	3,346
和歌山県	4	2	512
鳥取県	2	2	4,430
島根県	8	8	2,970
岡山県	7	5	1,698
広島県	2	2	1,172
山口県	3	3	1,471
徳島県	5	5	1,687
香川県	4	3	967
愛媛県	4	3	276
高知県	1	1	833
福岡県	19	18	5,331
佐賀県	5	5	2,413
長崎県	2	2	199
熊本県	5	5	3,710
大分県	3	3	677
宮崎県	6	6	2,846
鹿児島県	13	13	3,445
沖縄県	2	2	5,076
合計	352	322	129,104

◇教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	4	2	32,351
宮城県	1	1	12,694
福島県	1	0	0
茨城県	1	0	0
群馬県	1	1	4,450
埼玉県	1	0	0
千葉県	1	0	0
東京都	32	11	107,062
神奈川県	4	2	15,055
山梨県	1	1	7,743
長野県	1	1	6,720
岐阜県	4	2	19,790

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
静岡県	1	1	15,136
愛知県	4	2	21,919
京都府	2	1	4,344
大阪府	10	1	13,483
兵庫県	2	1	11,100
和歌山県	1	0	0
岡山県	1	0	0
広島県	1	0	0
愛媛県	1	0	0
福岡県	3	0	0
長崎県	1	1	6,957
大分県	1	0	0
合計	80	28	278,804

子ども読書の日記念“子どもの読書活動推進フォーラム”



事例報告を行う「こどもと本ジョイントネット21・山口」の代表者

事業の概要

4月23日「子ども読書の日」を記念し、広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動の意欲を高めるため、子どもの読書に関わる関係者が一同に会し、「子ども読書の日記念“子どもの読書活動推進フォーラム”」を開催しました。

当日は、全国から集まった表彰対象の読書活動優秀実践校、子どもの読書活動優秀実践図書館、及び優秀実践団体(者)の代表者のほか、教育委員会、図書館、出版関係、読書活動団体などから約500名の参加があった。また、来賓として、子どもの未来を考える議員連盟会

長で国土交通大臣の扇千景参議院議員をはじめ、中曽根弘文参議院議員(子どもの未来を考える議員連盟幹事、元文部大臣)、河村建夫衆議院議員(子どもの未来を考える議員連盟事務局長)、富田美樹子国立国会図書館国際



事例報告を行う「東京都立杉並ろう学校」の代表者



主催者挨拶を行う遠山敦子文部科学大臣

子ども図書館長の皆様のご列席をいただきました。

式典は、遠山敦子文部科学大臣の主催者挨拶の後、来賓を代表して、子どもの未来を考える議員連盟会長・国土交通大臣の扇千景参議院議員からご祝辞をいただきました。

続いて、読書活動優秀実践校（143校）・図書館（49館）・団体（者）（55）の代表者に池坊保子文部科学大臣政務官から文部科学大臣表彰の授与が行われ、引続き文部科学省から「子どもの読書活動の推進に関する法律」についての説明、さらに詩人で児童文学者の三木卓氏による記念講演が行われました。

最後に、表彰を受けた代表者による「子ども

の読書活動推進実践事例報告」が行われ、静岡県沼津市立千本小学校、鳥取県北条町立北条中学校、青森県立青森南高等学校、東京都



読書活動優秀実践表彰を行う池坊保子文部科学大臣政務官



来賓祝辞を述べる子どもの未来を考える議員連盟会長・国土交通大臣・扇千景参議院議員

立杉並ろう学校、ふきのとう子ども図書館（北海道）、財団法人得愛会・松本記念児童図書館・おじいさんの杜（大分県）、こどもと本ジョイン

トネット21・山口（山口県）、渡辺順子氏（東京都）が事例報告を行いました。

「子ども読書の日」とは

「子どもの読書活動の推進に関する法律」と「子ども読書の日」

平成11年8月、読書の持つ計り知れない価値を認識して、子どもの読書活動を国を挙げて支援するため、平成12年を「子ども読書年」とする旨の衆参両院の決議がなされました。また、平成12年5月には、国立国会図書館の支部図書館として「国際子ども図書館」が開館し、さらに、平成13年4月には、「子どもゆめ基金」が創設され、民間団体の行う子どもの読書活動等に対する助成が始まりました。

これらを中心になって進めてきた超党派の「子どもの未来を考える議員連盟」（会長：扇千景参議院議員。平成12年10月に「国際子ども図書館設立推進議員連盟」から名称変更）では、「子ども読書年」を契機とする子どもの読書活動を推進するための

取組を更に進めていくため、平成12年12月、「子ども読書活動振興法案作成プロジェクト」を設置し、法案の立法作業に取りかかりました。そして、平成13年11月、議員立法により「子どもの読書活動の推進に関する法律案」が国会に提出され、同年12月に成立、公布・施行されました。

この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、国が「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定・公表すること、4月23日を「子ども読書の日」とすること等、必要な事項を定めることにより、施策の総合的かつ計画的な推進を図るものです。

子どもゆめ基金の寄附金について

子どもゆめ基金への支援について

子どもゆめ基金は、政府出資金100億円と民間等からの寄附金を合わせ、その運用益を財源として、青少年教育に関する団体に援助

を行うこととなっています。

寄附金は、民間企業グループ、個人等の協力によりなりたっています。

子どもゆめ基金への募金

子どもゆめ基金の一層の充実を図るため、当基金では皆様からの募金をお待ちしております。募金の方法は、国立オリンピック記念青少年総合センター内（センター棟、スポーツ棟、カルチャー棟、国際交流棟）及び全国の各国立青年の家（13箇所）、各国立少年自然の家（14箇所）に設置している募金箱若しくは下記の郵便振替口座、銀行口座にて受け付けております。

郵便振替口座

口座番号	10070-74540451
口座名義	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 子どもゆめ基金

銀行口座

銀行名	東京三菱銀行 渋谷支店
口座番号	135-3025103
口座名義	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 子どもゆめ基金



子どもゆめ基金への寄附団体

平成13年度においては以下の団体から寄附を頂いています。(平成14年3月30日現在)(あいうえお順・敬称略)

- 株式会社アクアテックケーシーケー
- 旭シンクロテック株式会社
- 荒谷発声研究所
- 株式会社イトーキ
- 株式会社イドムコ
- 巖建設株式会社
- 栄光電気株式会社
- 株式会社エキスプレス工業社
- 大木建設株式会社
- 株式会社岡村製作所
- 株式会社オリゲン
- 株式会社河合楽器製作所
- 有限会社ケーアイテクニカル
- 株式会社宏隆
- コスモ証券株式会社
- 株式会社コモディ・イイダ
- 株式会社サニクリーン東京
- JSAT(ジェイサット)株式会社
- シーティーシー・テクノロジー株式会社
- 財団法人社会経済生産性本部
- 新光証券株式会社
- 株式会社善光堂印刷所
- 株式会社全日警
- 株式会社総合設備計画
- 株式会社ソデックスコーポレーション
- 株式会社第一成和事務所
- 株式会社泰平総合建設
- 高橋野線印刷株式会社
- タフカ株式会社
- 中央無線タクシー協同組合
- 株式会社中電工
- 株式会社テイスト・ライフ
- 東京私鉄自動車協同組合
- 東西化学産業株式会社
- 株式会社東洋軒
- 二光事務器株式会社
- 株式会社ニッコクトラスト
- 社団法人日本経済青年協議会
- 日本シティビルサービス株式会社
- 日本テクノストラクチャア株式会社
- 阪和興業株式会社
- フジフューチャーズ株式会社
- 株式会社ホマレ電池
- 松下電器産業株式会社
- 松本建設株式会社
- 三友株式会社
- 森永フードサービス株式会社
- 山口徳地少年自然の家
- 株式会社ヤマソーコーポレーション
- 有限会社ユウキ産業
- リンク情報システム株式会社
- 渡辺工業株式会社

子どもゆめ基金ガイド2002 2002年9月発行

編集 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 基金部

発行 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 03-3467-7201(内線 管理課:2852 助成課:2862)

URL <http://cs.kodomo.nyc.go.jp/yume/index.html>

E-mail yume@nyc.go.jp



交通案内

電車・バス利用の場合

■東京駅から

JR中央線 約14分 新宿駅で乗り換え
小田急線各駅停車 約3分 参宮橋駅下車 徒歩約7分

■羽田空港から

東京モノレール 約23分 浜松町駅で乗り換え
JR山手線(外回り) 約24分 新宿駅で乗り換え
小田急線各駅停車 約3分 参宮橋駅下車 徒歩約7分

■地下鉄千代田線

代々木公園駅下車
(代々木公園方面4番出口) 徒歩約10分

■京王バス

(新宿駅から)
新宿駅西口バスターミナル16番乗り場発
[宿51系渋谷駅行き] 乗車 代々木5丁目バス停下車 徒歩約1分

(渋谷駅から)
渋谷駅西口バスターミナル14番乗り場発
[宿51系新宿駅西口行き] 乗車 代々木5丁目バス停下車 徒歩約1分

車利用の場合

- 首都高速4号線 三宅坂方面から 代々木出入口約100m
高井戸方面から 初台出入口約2km
新宿出入口から 約2km
※大型バスの場合は、初台出入口、新宿出入口

独立行政法人
国立オリンピック記念青少年総合センター